豊崎中

「なぜ」と問い、見通しをもって共に学び合える生徒の育成はいかにあればよいか

（３年計画の３年次）

校長　　横　濵　由　紀

１　研究主題について

昨年度の研究成果は以下の通りである。

・課題の工夫により生徒の学ぶ目的が明確化し、学びが活性化した。その結果、学びの中から疑問が生まれ、探究心の向上につながった。また、自分の意見を積極的に発信することで話合いが活発になり、学びが深化した。

・授業の始めに今日の流れを視覚化しゴールイメージをもたせることで見通しができ、授業の終わりに振り返りをすることで､自分ができたことや今日のポイントを文字化することができた。その結果､「わかった！できた！身についた！」を実感することができた。

・スクリーンにプリントや教科書を投影したり､プレゼンテーションソフトを導入した説明など、教材を視覚化したりすることで、生徒の内容理解がスムーズであった。また、全職員による道徳実践、オリジナル道徳ノートの活用、議論する道徳の実践により、正解のない問いに自分なりの考えをもち議論することで、最適解（納得解）を導き出すことができた。

一方、急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや他者と切磋琢磨しながら変化に対応する能力や資質が一層求められている。そこで、今年度は、昨年度までの探究型授業の充実に加え、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成と発信力の向上を目指し、研究を進めたい。

２　研究のねらい

「なぜ」と問い、見通しをもって共に学び合える生徒を育成するために、各教科・領域の特性を踏まえた見方・考え方を核とした「深い学び」の在り方を研究する。

３　研究仮説

(1) 学びや変容を自覚する場面を設定することで、生徒は「わかった！できた！身についた！」を実感することができる。

(2) 「なぜ」「何のために」と学びの本質を捉えることにより、自分事として捉え、生徒自ら主体的に学ぼうとする意欲や態度を育成できる。

(3) 生徒一人一人の特性に応じた授業のユニバーサルデザインや互いに教え合い学び合える授業の工夫により、考えを深めることができる。

４　研究内容

(1) 確かな学力を育むために、教師の授業力の向上を図る。

ア　導入部分や発問の工夫により生徒の学習意欲を喚起し、主体的な学びにつなげる。

イ　見通しと振り返りの場の設定の工夫により、学びや変容の自覚を図る。

ウ　探究型・課題解決型の授業を展開するために、生徒が考える場面と教師が教える場面の組み立て方を工夫し、学びの深まりを図る。

(2) 「なぜ」と問い、自ら進んで発信できる生徒の育成を図る。

ア　各教科等の授業のみならずあらゆる教育活動を通して、“問いを立てる”“発信する”をテーマに生徒の主体的な取組や言語活動を推進する。

イ　インクルーシブ教育の視点に立った教育を推進する。

①　授業のユニバーサルデザインやＩＣＴの活用など効果的な指導の手立てを、全教職員が共有できる環境整備を行う。

②　少人数のメリットを生かして、一人一人の特性を捉え、正しい生徒理解と個別指導の充実を図る。

(3) 道徳の推進やキャリア教育講演会等の取組による学び合いの質の向上と生徒が議論し探究するための技能と態度の育成を行う。

(4) その他

諸検査やアンケート調査の結果を分析し、生徒の実態に即した指導を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用できる力の育成を目指す。

以上の実践を、実効性あるものとするために、全員が授業公開し、授業技術の向上を目指す。

5　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等　　全体会等
10	12	教科：音楽　　学年：３年　　授業者：沢口　美津子 題材：変化と対応 仮説：曲を比較しながら聴くことで、生徒の音楽的な見方・考え方を働かせることができ、深い学びを実現することができる。 検証：グループ活動、ワークシート 成果：・楽譜を忠実に読むことができるようになった。 ・わからない音楽用語を周りに聞いたり調べたりすることができた。 ・グループ活動をすることで、自分以外の意見を聞き新たな発見に気付くことができた。 課題：・興味をもって活動する生徒とそうでない生徒の差があるので、しかけを工夫していかなければならない。 ・「なるほど～」と瞬時に思うだけで、生活に活かしてみようというところまでの結びつきがまだ弱いので、こちら側の発信が必要である。
11	5	教科：英語　　学年：３年　　授業者：葛西　良子 題材：Lesson 4 The World's Manga and Anime 仮説：逆算的な単元構想に基づき舞時間の目標設定を工夫することで、生徒が文法を習得する必要感をもち、主体的に学ぼうとする意欲や態度を育てることができる。 検証：グループ活動、ワークシート 成果：・「『最終的には初見の長文（２００語程度）の概要を読み取る』ことをゴールとし、そのために『関係代名詞（主格)』の役割を知る必要がある」ということを理解した上で、見通しをもった学習を進めることができた。 ・個人で約５０語の概要→グループで約３００語の概要→個人で入試風問題（グループと同じ問題）→個人で２００語の概要（初見）と徐々に長文に慣れさせることができた。 ・グループに問いを与え、分割された長文をグループ内で読み取り、その情報をワールドカフェ式に話し合っていく中で答えを見出していくという段階を踏んだ演習を行うことで、長文読解に対する抵抗感が払拭できた。(生徒アンケート結果) ・教師側で生徒に目的意識をもたせる工夫をしたため、生徒は文法を学ぶ必要性を感じた上で活動に取り組むことができた。また、本時で学習したことをもとに、思考・判断・表現を意識した試験問題を教師が作成し実施した。 ・本時の活動を受けて、生徒は自分たちで他の資料を調べ、英語でプレゼンを行う活動につなげることができた。さらに、そのスライドを使用してパフォーマンステスト（記憶に残る評価）をできた。 課題：・能力に応じたプリントやグループ活動のさせ方の吟味など、全ての生徒が個々に課題に取り組めるような教師側の工夫が必要である。 ・力がついたかどうかの検証方法を工夫する必要がある。 ・生徒の本来の問いになるために、教師側の提示の仕方を工夫する必要がある。

11	12	教科：数学　　学年：１年　　授業者：伊藤　広哉 題材：変化と対応 仮説：・教え合い、学び合う場の設定 ・本時の流れが一目で分かるような板書の工夫 ・演習問題の精選と工夫 を意識した授業を展開することにより、教え合い、学び合い、計算技能の習得や内容の理解が進化する。 検証：授業中の話合い活動とワークシート、単元テスト 成果：・全員解答を目指し、教え合い活動、学び合い活動が活発化した。 ・発表させる場面を多く設定することで､生徒の説明する力も向上した。 課題：・授業者側でかなり誘導しないと解決にたどり着けないことが多い。次年度は「かなり」の部分をとれるようこちらも課題提示の仕方を工夫する必要がある。 ・できたつもり、わかったつもりになっている生徒もいる。あまりに明確に答えを導く授業よりも、疑問をもたせ確認・検証するような授業形態を研究する必要がある。
11	24	教科：保健体育　　学年：３年　　授業者：尾崎　元子 題材：フットサル 仮説：・学び合い教え合う場面の工夫 ・視覚化を意識した板書の工夫 ・学習ノート（振り返り）の工夫 を授業の中で意図的に設定し、他者と関わり合い、諸問題を自分のこととして考えさせることで、技能の習得や内容の理解が深まる。 検証：グループ活動を通しての学び合い 成果：・学習課題を全員で達成しようと、建設的な話合いになった。 ・どうしたらできるのか、自分よりできる仲間に聞きにいける。聞かれた仲間もできるようなるまで献身的に教える。 ・ゲームが終わるたびの振り返りでは、自分のできなかったことを自分で話せる。 課題：・学び合いの場を設定しても、ポイントを掲示しないと、ポイントが何かわからず、ただ運動をしているだけのグループがあった。（巡回中に指摘する） ・練習してからのゲームの内容が、練習が活かされていない。ゲームに活かされるような意識をもっての練習が必要である。
11	30	教科：英語　　学年：１年　　授業者：丸屋　百合奈 題材：数をたずねる疑問文とその答え方 仮説：学びや変容を自覚する場面を設定することで、生徒は「わかった！できた！身についた！」を実感することができる。 検証：ワークシート 成果：振り返りの場面で、できるようになったことを多く書くことができ、生徒は身についたを実感することができた。 課題：生徒の意欲が持続するために教師側の仕掛けが必要である。
12	3	教科：理科　　学年：１年　　授業者：大嶋　知子 題材：混合物から純粋な物質を取り出す（蒸留） 仮説：学びや変容を自覚する場面を設定することで、生徒は「わかった！できた！身についた！」を実感することができる。 検証：ワークシート

		成果：既習事項を振り返る場面や終末の本時の振り返りの場面を設定することで、生徒にわかったことを実感させることができた。 課題：学びを深めるために、実験が成功したか失敗したかだけでなく、「なぜ失敗したのか」と振り返る視点が必要である。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	21	校内研修 キャリア教育研修会 ・キャリアノートの使い方について １人１台端末活用研修会 ・クラスルームの作り方について
5	26	要請一般研修 授業改善と評価の工夫について 講師：八戸市総合教育センター　主任指導主事　大下　洋一　氏
5	27	要請一般研修 １人１台端末活用研修 講師：八戸市総合教育センター　主任指導主事　石井　一二三　氏
7	10	特別支援教育に関する研修 講師：山形大学教職大学院　特別支援教育分野教授　三浦　光哉　氏 演題：特別支援教育の理解と支援 内容：①巡回相談とスクリーニング ②学級経営の基本（環境調整） ③発達障害の理解と支援 ④スクリーニング結果の情報共有
7～8月		夏期講習会等への参加(校外研修)
8	4	道徳模擬授業研修会（小中JSにて） 講師：八戸市立是川小学校　校長　佐々木　宏恵　氏
8	18	校内研修 ・指導案検討会
8	18	要請一般研修 特別な支援を要する生徒への支援の在り方 講師：八戸市こども支援センター　主任指導主事　佐藤　佳子　氏
10	6	校内研修 ・生徒に関する情報交換 ・新体力テストから見た本校生徒の実態分析 ・諸検査分析と今後の指導の方針検討会

６　研究の成果

(1) 教師が教える場面と生徒が考える場面、まとめる場面の組み立て方を工夫し、生徒の学びの深まりを図ることができた。
(2) 全教員による道徳の授業実践を通し、学び合いの質の向上と生徒が議論し探究するための技能と態度の育成を行うことができた。実践が教科や行事、係活動など他の活動にも活かされた。
(3) 全教員が公開授業を行うことで、お互いの授業を見合うことができ、授業改善に役立った。

７　研究の課題

(1) 生徒から出てきた問いで課題を設定するために、生徒の「なぜだろう」を引き出す導入の仕方の工夫が必要である。
(2) 指導と評価の一体化を図るために、主体的に取り組む態度の適切な評価のための研修が必要である。
(3) 探究的な学びを推進するために、総合的な学習の時間を柱とする計画の見直しが必要である。

（記入者　　大嶋　知子）